

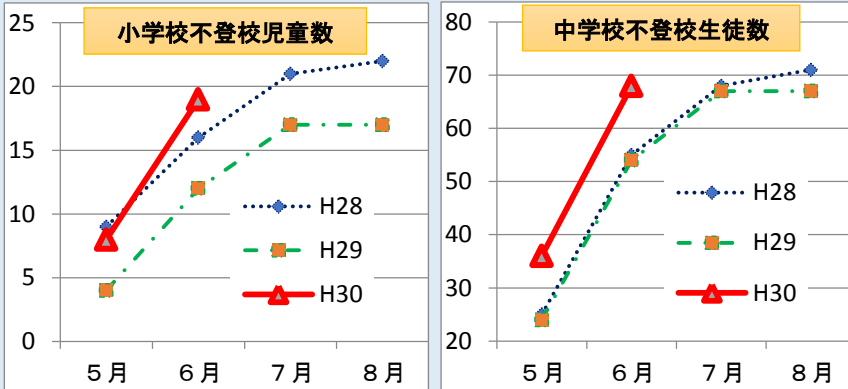


全ての子どもにとって、居心地のよい学校づくり

期待や意欲を持てる2学期スタートへ

お役立ち情報
H30.8月号

西部地区における不登校(30日以上)の推移 ～月例報告より～



- 特徴**
- ◆6月の数値を比較した際、今年度は人数が増えている。
 - ◆内訳は、昨年度からの継続が多いが、新規も約1～2割を占める。
 - ◆7～29日欠席の児童生徒については、小学校が昨年並み、中学校は減っている一方で、新規は増えている。

新規・継続ともに実態把握に努め、情報を共有しましょう。一人一人の実状や思いに寄り添い、不安を払拭していくことが重要です。



チームとしての組織体制づくりが西部の強み!

ケース会議(学校+関係機関)の開催状況

| | 開催回数 | 件数 | 参加者数 (教職員) | 参加者数 (関係機関) |
|----|------|-----|---------------|----------------|
| 西部 | 310 | 572 | 987 | 1123 |
| 県 | 379 | 645 | 1115 | 1249 |

連携した関係機関等

| | 福祉 | 医師・保健師等 | 警察 | 司法 | 教育支援センター等 | 他 | 地域 |
|----|-----|---------|----|----|-----------|----|----|
| 西部 | 412 | 135 | 24 | 0 | 66 | 25 | 40 |
| 県 | 498 | 172 | 33 | 3 | 109 | 47 | 62 |

(H28 スクールソーシャルワーカー活動報告より)

西部地区小中学校の教育相談体制の特徴の一つに、ケース会議や関係機関との連携の多さが挙げられます。「教育相談コーディネーター」を中心に、今後もチーム学校で児童生徒を支援していきましょう。



思い当たる子供はいませんか?

前年度までに不登校経験があったが、出席して頑張っている。



**頑張りすぎた1学期の反動
モチベーションの低下
2学期への不安
基本的な生活習慣の乱れ**



1学期や前年度までの実態から、夏休みの宿題を完了させることが困難だと予想される。

学業不振や友人とのトラブル等、精神的動揺が生じる出来事があった。



家庭で十分なサポートが得られにくく、昼夜逆転等、生活が乱れる可能性がある。

大きな行事に対してプレッシャーを感じやすい。



夏休み明け前からの取組で、全ての子どもが安心して2学期をむかえるために...

電話連絡や家庭訪問を実施し、夏休み中の子供の状況を把握する



しばらく会えていないけれど元気になっていますか?

まだ終わっていない宿題を先生と一緒にしませんか? 来られる時間に来てみませんか?



「気にかけているよ」「2学期に会って話を聞くのを楽しみにしているよ」というメッセージが、子供に伝わるのがポイント。

※夏休み中に、2学期スタートの子供への関わり方や不登校傾向の子供への支援体制等を確認しておきましょう。

生徒の不安を払拭し、2学期への期待や意欲を引き出す取組【東山中学校】

夏休み最終の3日間(午前)に、全校生徒対象の教育相談日を設定

- ・生活状況の聞き取り
- ・**宿題・課題の達成状況の把握**
- ・2学期に向けての意欲喚起等

達成状況によって「ここまでは頑張ってみよう」と具体的な目標を設定したり、学校で一緒に課題に取り組むことを提案したりします。補担が生徒の指導を行う等、チームで対応!



教師側の一方的な話ではなく、生徒が話す時間を多くとる。(1人15分間を確保)

取り組んだことで...

- ◆教師は、生徒との会話を通して生徒理解が深まる。(開放的な雰囲気での長期休業中だからこそ、生徒とじっくり向き合える!)
- ◆生徒は、2学期スタートに向けた心構えができる。(始業式特有の高揚感が落ち着き、体育館に集まった生徒の姿が変わる!)

毎日の授業や生活場面でも「自分の思いや考えを話すことができる」子供の育成を学校全体で取り組んでいることで、より効果の高い教育相談につながっています。

